

地域を潤し350年

地域とともに 「歴史的農業遺産」を守る

朝倉郡山田堰土地改良区



山田堰と堀川用水の誕生

福岡県の南東、筑後川中流域に位置する朝倉市は、日本米づくり百選に選ばれた豊かな水田地帯ですが、かつてはわずかな水田があるだけで、湿地や原野、砂地が広がる地域でした。

寛文3年(1663)、この地域に筑後川から水を引くために、筑後川に石を投じ、土嚢を積み、松杭を打って堰を造り、全長8kmの堀川用水路が開削され、新たに150町歩の水田が拓かれました。

享保7年(1722)には、より多くの取水を可能とするため、新たな取水口として、恵蘇山塊の岩盤をくりぬいた切貫水門が築造されました。これ以降も堀川用水の改良は繰り返され、中でも堀川の大恩人と呼ばれる庄屋・古賀百工(1718年生)は、宝暦9年(1759)に切貫水門を拡張し更なる取水量の増強を図るとともに、同10年(1760)から5カ年の歳月を費やし、新堀川(堀川南線)を整備して灌漑面積を370町歩にまで拡大しました。

さらに、寛政2年(1790)、70歳を超えた百工は、筑後川を斜めに堰き止める日本で唯一の「傾斜堰床式石張堰」である山田堰を完成させました。その規模は、石張面積25,370m²、堰長320m、堰高3m、南船通し190.4m、中船通し146.7m、土砂吐23.4m。山田堰の完成により、灌漑面積は487町9反になりました。なお、現在の灌漑面積は、652町歩となっています。

※1町歩=約1ha、1反=約10a

重連水車の誕生

堀川用水の上流地帯は、堀川より高い場所に位置していたため堀川の恩恵を受けることができませんでした。「足踏み水車」を使い水を汲み上げていましたが、十分に水を行き渡らせることは困難であったため、寛政元年(1789)、人々は工夫を凝らし自動回転式の揚水機である重連水車(菱野の三連水車、三島の二連水車、久重の二連水車)を完成させ35町歩の水田を潤すことを可能にしました。

これらの水車は、堀川用水、山田堰とともに現在も地域の農業を支えています。

山田堰がアフガニスタンの農民を救った

山田堰が築造されてから220年後の平成22年(2010)、日本から遠く離れたアフガニスタンに、もう一つの山田堰が完成しました。

PMS(ピース・メディカル・サービス・ジャパン=平和医療団日本、院長:ペシャワール会現地代表中村哲医師)。この組織は、昭和59年(1984)からアフガニスタンやパキスタンで復興支援活動続ける医療組織です。戦乱と旱魃により多くの人が亡くなったアフガニスタンで、清潔な飲料水を求めて奔走し、6年間で約1600ヶ所に水源を得ました。

平成15年(2003)年からは、食料生産の用水を得るため、全長25.5kmのマルワリード用水路建設に着手しましたが、このときにモデルとなったのが山田堰です。山田堰をモデルとしたマルワリード水路は、7年の歳

月を経て完成し、広大な荒廃地 3000ha が農地に生まれ変わり 15 万人が生活できるまでに復興しました。

このことが、多くの報道機関で報道されるとともに、中村医師が全国の講演会で講演されることで、一躍山田堰は国内外から脚光を浴びることとなりました。

次世代へつなぐ農業遺産

当改良区では、「山田堰・堀川用水路・水車は地域の宝・財産」としてさまざまな活動に取り組んでいます。

1. 地域とともに「堀川クリーンアップ活動」

平成 18 年に「疎水百選」に認定された堀川用水路は不法投棄・空缶・空瓶のポイ捨てで景観を損なっていました。そこで地元の有志と改良区が一带となり平成 20 年に「堀川の環境を守る会」を設立。ボランティアや地元区会長等の協力を得て、第 5 回目となる本年度は地域住民や子供会 900 名が参加する活動にまでに発展しました。

2. 「水源林体験学習」への取り組み

平成 22 年度より地元小学校 4 年生を対象にした「水源林体験学習」に取り組んでいます。筑後川の水源である熊本県小国町森林組合の支援により、筑後川の豊かな水が水源林により涵養されていることや水源林の課題を学習し、山田堰・堀川用水・水車群の歴史を学びました。(平成 23 年度から小学校 4 年生の総合学習において、「山田堰・堀川用水・水車群」の学習カリキュラムが組まれています。)

3. 「水の学習発表会」開催

地域の文化祭において、水源林体験学習で学んだことを発表しています。観客に感動を与える発表会として地域の話題となり、改良区の取り組みが高く評価されています。

4. 「世界農業遺産登録」に向けた地域の取り組み

堀川用水路を農家だけで維持管理することが困難な時代になりつつあります。「地域の宝は地域で守る」ことを理念とし、様々な活動をする中で、地域の中で「世界農業遺産登録」に向けた取り組みが活発になっています。山田堰・堀川用水・水車群を次世代に引継ぐため、積極的に事業展開を行っていきたいと考えています。



山田堰



マルワリード用水路取水堰



クリーンアップ活動



水源林体験学習

筑後川中流域「四大井堰」の一つ山田堰。先人が築いた歴史は今も朝倉地域の農業を支えています。農業用水の安定供給を担う水資源機構もその文化遺跡に学ぶために、たびたび訪れる場所でもあります。又、朝倉郡山田堰土地改良区は、今夏、山田堰の歴史や水源を守る活動等の功績に対して「平成 24 年度水資源功績者表彰」を受賞されました。